

S&Pグローバル 日本製造業PMI®

製造業の生産高は顕著な増加が続く一方、コスト圧力は一段と強まる

2026年5月

生産高と売上高、引き続き力強く増加

購買コストと販売価格、記録的水準に迫る急激なペースで上昇

深刻なサプライチェーンの混乱を背景に、在庫積み増しの動きが続く

最新のPMI®データによると、日本の製造業は5月も引き続き生産量を拡大した。生産高の堅調な増加は、新規受注が引き続き力強く増加したことに加え、中東情勢に起因するサプライチェーンの混乱や購買コストの上昇を背景とした在庫積み増しの動きにも支えられた。特に、購買コストと販売価格は24年半に及ぶデータ収集期間でもほとんど例を見ないペースで上昇した。

主要指数のS&Pグローバル日本製造業購買担当者指数™ (PMI) (製造業の業況を総合的に表す指標) は、51か月ぶりの高水準だった4月の55.1から5月は54.5に低下した。それでも、この値はセクター全体の業況が顕著に改善していることを示しており、本セクターの業況はこれで5か月連続での改善となった。

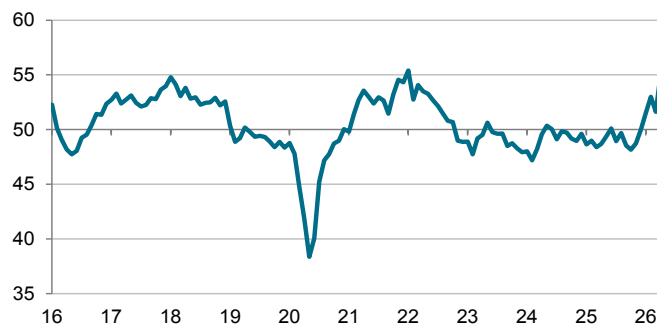
セクター別データは、5月の業況改善が中間財セクターを筆頭に広範に及んでいることを示した。

2026年初めから増加の続く日本製造業の生産高は、5月も増加。その増加ペースは、12年以上ぶりの高水準を記録した4月から鈍化したものの、全体としては顕著なペースで調査史上平均を大幅に上回って推移している。企業からの声を総合すると、生産量の増加は、売上高の増加に加えて在庫積み増しの動きによるものだった。

同様に、5月の総新規受注は鈍化したものの依然として堅調なペースで増加した。中東情勢による混乱を受けた安全在庫積み増しの一環として、顧客が発注に動いたとの報告が見られた。特に、半導体や石油由来製品の需要増を指摘する声があった。新規輸出受注が5年ぶりの速いペースで増加し、海外需要が一段と力強く増加したにもかかわらず、総新規受注数の伸びはわずかに鈍化した。

生産量の増加を支え、将来の資材不足やサプライヤー価格の上昇に備えるために、製造業は5月も引き続き購買数量を増やした。その増加ペースは4年ぶりの高水準だった。一方で、購買品の納期は引き続き大幅に長期化しており、そのペースは新型コロナウイルスパンデミック期を除くと最速の部類に属する。多く

S&Pグローバル 日本製造業PMI
季節調整済み指数、>50 = 前月比で改善



本調査データ集計期間: 2026年5月11日~5月21日
出所: S&PグローバルPMI。©2026 S&P Global

コメント

Annabel Fiddes, S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、エコノミクス・アソシエイト・ディレクター

「最新のPMIデータは、生産高と新規受注が調査史上でも力強いペースで増加し、日本の製造業全体が5月も底堅く成長したことを引き続き示した。

しかし、調査の詳細を見ると、現在の成長局面は、企業が中東情勢を背景とする製品不足への備えや価格リスクの軽減を進める中、製造業者とその顧客による在庫積み増しの動きに一部支えられたものであることがわかる。

一般的なインフレ圧力は5月も引き続き強まっており、購買価格指数と販売価格指数はともに24年半を超えるデータ収集期間の中でも例のない水準まで上昇した。

今後の生産高に対する景況感が直近の4月の低水準から小幅な上昇にとどまったという事実は、先行きの不透明感が高まっていることを示している。製造業は概してAIや電子産業などの分野での力強い成長が引き続き追い風になると見込んではいるものの、コストの急増や世界経済の低迷が今後数か月間の逆風となる可能性がある。」

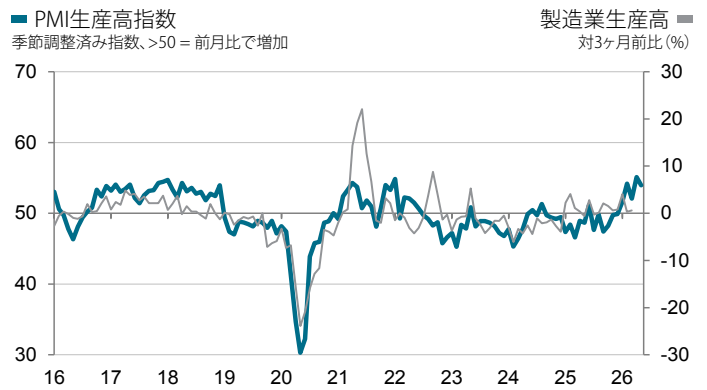
の企業がその要因として中東情勢によるサプライチェーンへの影響を挙げた。

原材料の調達難も在庫積み増しの動きを制限した。さらに、購買品在庫は4月の小幅な増加を受け、5月も小幅なペースで増加した。一方で、完成品在庫は受注の消化に伴い減少した。

増産への対応から、製造業全体の雇用者数は5月も引き続き増加した。雇用は全体として堅調に拡大し、雇用者数の増加ペースは4年余りで2番目の水準にじわりと上昇した。しかし、受注残がさらに力強く増加したことが示すように、生産能力が逼迫する状態は続いた。その一因としては、新規受注の増加に加えて資材不足も指摘された。

第2四半期の半ばに入ってもコスト圧力の強い状態が続き、平均購買価格は2022年9月以来最も大幅に上昇した。多くの企業が金属や石油由来製品など原材料価格の高騰に言及し、人件費や輸送費の上昇もインフレの押し上げ要因として指摘した。これを受け、平均販売価格は急激なペースで上昇し、そのペースは2022年10月以来の最速となった。

今後の生産に対する5月の景況感は、1年ぶりの低水準だった4月からは回復したものの、調査史上平均を下回る状態が続いた。多くの企業が、顧客需要の増加や新製品開発、電子機器など主要セクターの成長が生産を押し上げると期待する一方で、一部の企業では地政学的な不確実性やコスト上昇が見通しを押し下げた。



お問い合わせ

Annabel Fiddes
エコノミクス・アソシエイト・
ディレクター
S&Pグローバル・マーケット・
インテリジェンス
電話：+44-1491-461-010
annabel.fiddes@spglobal.com

Eri Amano
アジア太平洋シニア・
コミュニケーション・マネージャー
S&Pグローバル・マーケット・
インテリジェンス
東京
電話：+81 (0) 80 3714 7658
eri.amano@spglobal.com
press.mi@spglobal.com

S&Pグローバルからお届けするニュースリリースの配信停止をご希望の場合は、press.mi@spglobal.com宛てにその旨お知らせください。当社プライバシーポリシーは、[こちら](#)からお読みいただけます。

調査手法

S&Pグローバル日本製造業PMI®は、S&Pグローバルが製造業約400社の購買担当者に毎月調査を行い、その回答をもとにまとめています。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。データ収集は2001年10月に開始されました。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数は購買担当者指数™(PMI)です。PMIは次の5つのサブインデックスの加重平均です：新規受注(30%)、生産高(25%)、雇用(20%)、サプライヤー納期(15%)、購買品在庫(10%)。ただしサプライヤー納期指数は、結果として得られる数値が他の指数と比較可能になる計算方法で算出しています。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調査要因は必要に応じ修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

PMI調査方法の詳細は、economics@spglobal.comへお問い合わせください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インク及び/又はその関連会社に帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクは、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクは一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はS&Pグローバル・インクの商標又は登録商標、もしくはS&Pグローバル・インク及び/又はその関連会社に使用が許諾されたものです。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含まない情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱落(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益及び逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。